

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善、及び進路指導に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

標準偏差値において、県との差を3ポイント縮める。(48)

## 3. 指標にむけての取組

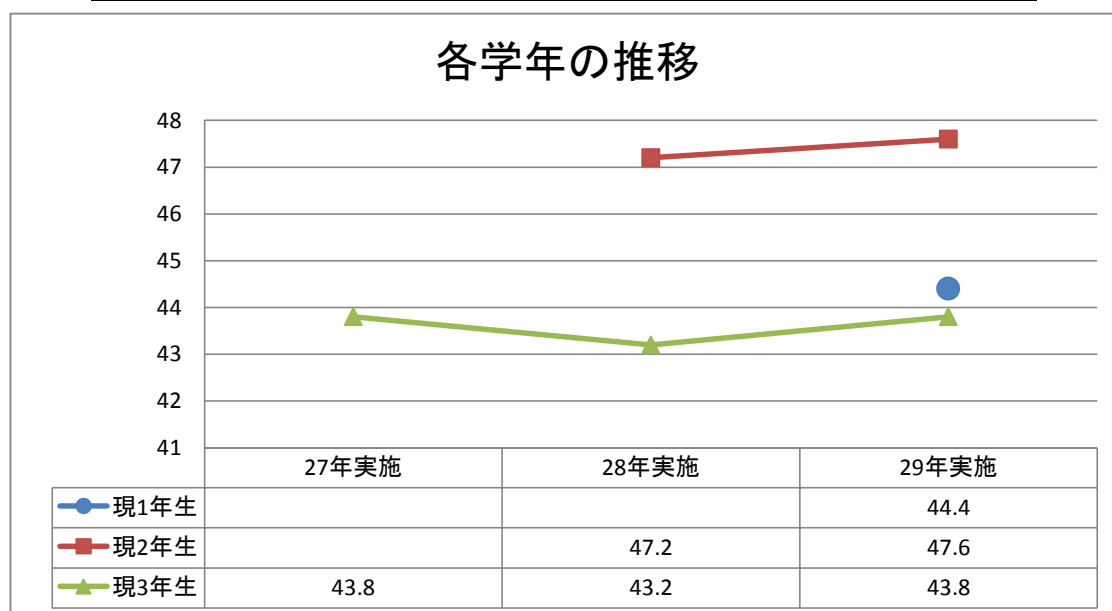
- 帯時間や家庭学習において基礎基本の定着を図る問題をスモールステップで行う。
- フォローアップシートの活用。
- 自学ノートの取組の中で基礎基本の定着が不十分な生徒に応じた学習課題の提示。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本校(A)	43.5	44.3	44.0	45.0	45.3
嘉麻市(B)	45.6	46.6	47	47.3	47.9
(A)－(B)	-2.1	-2.3	-3	-2.3	-2.6
標準偏差値との差 (A)－(50)	-6.5	-5.7	-6	-5	-4.7

### 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- ・3年生は入学時と比べ、2年時で0.6ポイント低下したが、3年時で回復。しかし、入学時と変わらないという結果で、ほとんど改善が見られず、指標を達成できなかった。
- ・2年生は、わずかではあるが0.4ポイントの向上がみられたが指標を達成するにいたっていない。
- ・毎年同じ領域に課題がある。
- ・教科で与えられた宿題のみの家庭学習の状況である。

## 6. 各学校における今後の取組

- 基礎・基本の定着を図る活動と、学習内容を振り返る活動に取り組む。
- 教科の宿題以外に自学ノートを毎日提出させることで家庭学習の習慣化するとともに、習熟度別に個別化された課題を週末課題にし、120分以上取り組ませる。また、月曜日の提出率95%以上にする。
- 各教科における領域別の得点率などの細かなデータから、実態や課題を把握し、系統性のある改善策を立てる。
- 学力向上に向けた小中の連携

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を実施する。また、短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。

嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。また、個の学習課題に応じるため、週末課題の個別化を推進する。